

平成 30 年度 第 2 回「伊勢志摩定住自立圏共生学」運営会議議事録

【日 時】平成 30 年 6 月 19 日（木）18 時～18 時 44 分

【場 所】皇學館大学 9 号館 1 階 小会議室

【出席者】（伊勢市）辻情報戦略局参事・企画調整課長（鳥羽市）岩井企画財政課副参事（度会町）中井まちづくり推進課長（大紀町）田中企画調整課長（明和町）朝倉防災企画課主幹
（三重銀総研）別府調査部長
（大学）齋藤教授、筒井教授、板井准教授、近藤准教授、千田准教授、池山助教、森企画部長、梅川地域連携推進室員

*欠席 （志摩市）澤村政策推進部参事（玉城町）小林副町長兼総合戦略課長（南伊勢町）柳原行政経営課長
（大学）、笠原教授、木村局長

【議 題】

1. 第4回本事業取組内容公表シンポジウムについて

齋藤教授、板井准教授より配付資料を基に説明がなされた。

- 平成 30 年 9 月 9 日（日） 皇學館大学 6 2 1 教室（6 号館 2 階）にて開催。
- 事業最終年度、取りまとめの時期となった。今年度は、これまでの振返りをしたいと考えている。
- 2 部構成（Ⅰ部：セレモニー、シンポジウム、Ⅱ部：パネル交流会）で、司会進行（ファシリテーター）を学生のみで行う。登壇者は CLL 等の参加学生 3 名とし、学生の活動報告を踏まえてコメントをいただくコメンテーター（3 名）を実施主体、連携自治体職員の方をお願いしたい。

審議の結果、異議なく了承された。

2. 『伊勢志摩定住自立圏共生学』教育プログラムの行政チャンネルを利用した番組制作、配信について

齋藤教授より説明がなされた。

- 春学期は 3 本制作（鳥羽市、明和町、志摩市）。
- これまで外部評価委員会や運営会議で、YouTube への配信を検討するとしていた。しかし、地域課題学修支援室運営会議において YouTube への配信については、手続きや映像に映られる方の許諾等を慎重に検討したほうがよいのではないかとの意見もあり、当面行政チャンネルでの配信として番組制作を進めていきたい。うまく条件が整えば、YouTube への配信は本教育プログラムを発信するという点で有効と考えるので、可能性を残し検討を進めたい。
- 本学が番組制作経費の予算措置を講じることに変更はない。

（問）1 番組の長さは。

（答）15 分程度を目処に制作したい。

（問）秋学期に残りの市町で制作ということか。

(答) できれば8市町すべてで、何かしらの形で番組制作ができればと考えている。テーマについても本学から提案しながら進めたい。

審議の結果、異議なく了承された。

3. 平成30年度 CLL 活動について

齋藤教授より配付資料をもとに説明がなされた。

新規活動(3件)

- ①伊勢おはらい町 防災プロジェクト
- ②TMK ミライデザインプロジェクト(玉城町下外城田明るい未来推進PJ)
- ③観光PR動画制作と海外への発信PJ

継続活動名、内容変更(2件)

- ①あばばい～伊勢志摩国立公園 学生部会～
- ②伊勢シーパラダイス体験アクティビティ開発PJ
(←活動内容がアクティビティ開発にポイントを置くこととなったため、活動名変更)

- かねてから大学全体への広がりと言う点で、CLL 活動の担当教員がCOC 関係教員に限られているのではないかと外部評価委員会で指摘を受けていたが、今回の「観光PR動画制作と海外への発信PJ」については、担当教員を国文学科 岡野准教授に依頼した。これまでに古地図と現在の地図を比較しながら見ることができるアプリの開発等を行っており、適任と考える。
- 活動数22活動、延べ参加学生数177名(6月19日時点)。年度当初から多くの学生が継続、あるいは新規で活動を始めており、CLL 活動が定着してきたと考える。

審議の結果、異議なく了承された。

【報告】

1. 平成30年度自己点検・評価委員会及び外部評価委員会(5月)報告

齋藤教授より説明がなされた。

- 比較的順調に進んでいると評価をいただいた一方で、事業の継続性についての質問を多くいただいた。すでに平成31年度以降の新カリキュラムにおいて、本教育プログラムの科目はそのまま残していくことが決まっており、それに付随してCLL 活動も継続して取組んでいく予定である。
- 全学的な広がりという点で、ややCOC 関係教員に活動が閉じられている印象を与えているので、CLL の担当教員などを学部教員にも依頼しながら、進めていきたいと回答した。

異議なく了解された。

2. 文部科学省統一指標フォローアップアンケート結果について

齋藤教授より配付資料をもとに説明がなされた。

*学部学生アンケート

(設問1) 65%が「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進している

ことを「知っている」と回答。

(設問2)「受講したことがある」と回答した者は46%にとどまった。該当授業科目には1年次全学必修「伊勢志摩共生学」も含まれており、今年度は「地域のための大学」として実施する科目であることを説明しながら授業を進めたい。

(設問11)49%が「まだわからない」と回答。地域の課題解決に取り組むCLL活動の意義や自分にとってどういう能力が身につくのかという説明が少し不足しているかと思われる。

*教員アンケート

(設問2)「教育・研究それぞれにおいて参加している」44%。このように意識している教員をさらに巻き込みながら事業を拡大していくことが必要と考える。

*自治体の代表アンケート

(設問1、2)副申した事業計画どおりに進捗しているか、円滑な連携の下に実施されているか。「はい」100%

(設問3)皇學館大学の取組は「地域のための大学」として満足するものか。「大いに満足」+「満足」100%。

異議なく了解された。

3. CLL 学修効果測定について

齋藤教授より配付資料をもとに説明がなされた。

*今回の活動で養うことができると思う資質・能力

- 回答数が多かった項目：「コミュニケーション力」、「実行・解決力」、「問題発見力」

*活動前・後の自己評価

- 明らかに事前評価を示す多角形よりも事後評価を示す多角形の方が大きくなっている。あくまでも印象評価であるが、自らが高まったと認識していることがわかる。
- 協働性に関する項目の自己評価が高くなっている。

*活動後アンケート

(設問2)活動について「友人・知人から」から知ったと回答した者は23%。活動が広がりを見せていく一つのきっかけになっている。

(設問7)CLL活動は地域の人と大学生をつなぐ仕組みとして機能していると思うか。「そう思う」79%

(設問11)就職してからも今住んでいる場所に「ずっと住み続けたい」、「できれば住み続けたい」と回答した者62%。本学のCOC事業「定住自立を考える」というテーマに沿った回答をしている者が6割程度いる結果となった。

異議なく了解された。

4. 平成29年度CLL活動時間報告

- ・延べ報告者数 126名 延べ報告時間 4753.6時間 (5月9日時点)であった。

異議なく了解された。

5. 平成30年度COC教育プログラム開講状況(社会人履修生、履修証明プログラム履修者数)等について

- ・伊勢志摩定住自立圏共生学科目Ⅰ～Ⅳ 社会人履修生(科目等履修生)2名。(うち1名は履修証明プログラムもあわせて受講)
- ・副専攻のアナウンスを強く行わなかったところ、今年度の登録者数が減少してしまった。この点、次年度に向けて改善したい。

異議なく了解された。

6. その他

①「GIS day in 2018」 (配付資料参照)

- ・平成30年8月17日(金)、18日(土) @皇學館大学
- ・教育開発センター共催。本イベントの周知にご協力をお願いしたい。(申込締切:8月10日)

*次回日程

次回(H30年度 第3回)運営会議は、

平成30年7月19日(木)18時～ 皇學館大学 9号館1F(911)にて開催されることが確認された。

以上